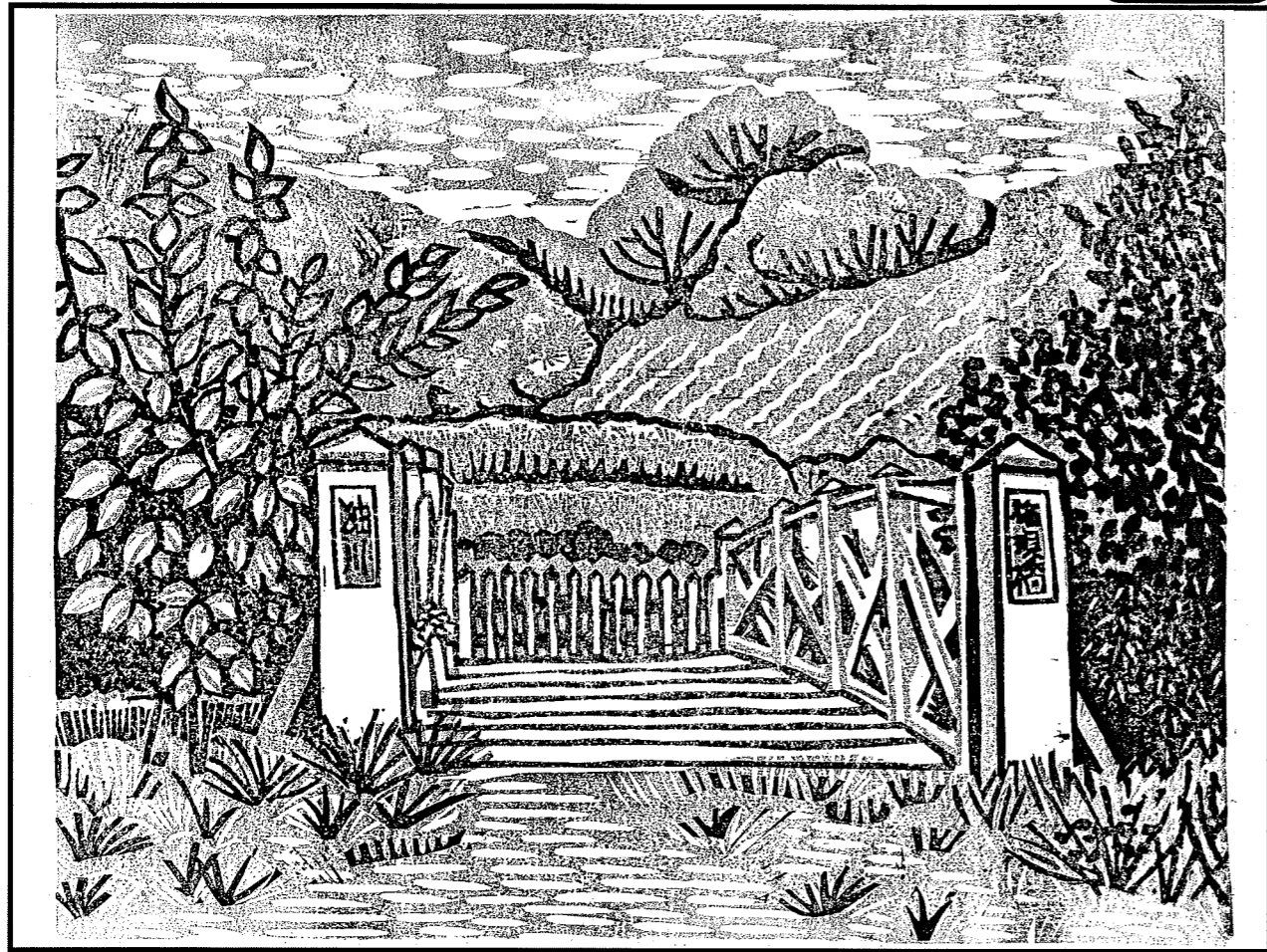


いたちがわらばん

鮎川・狹川・川原番・瓦版 秋号



版画 宗森英夫

木の欄干がついている「権現橋」

木橋

太古、橋の始まりは、台風や崖崩れなどによる倒木が川の対岸に届いて、水に入らずに川を渡れることを知ってからです。それから、石斧などで丸太を切り出し、川に架け丸木橋を造ったのが始まりだと思えます。建造技術の発達に伴って、大型の橋梁も造られるようになり、江戸時代には、浮世絵に見られるように、両国橋など大勢の人が渡れる橋もできました。

日本では、木材が入手しやすかったことから、近代になるまで、橋といえば木橋がほとんどでした。いたち川でも、昭和初期まではほとんどが木橋でした。そのため、洪水のたびに、よく流されました。

現在では、上流の「みなもとの橋」「みなもと一の橋」「弁慶橋」「源氏橋」「権現橋」などが木橋として残っています。

全国各地に美しい木橋がありますが、山口県岩国市の「錦帯橋」は最も有名です。横浜市内では、金沢区の称名寺の庭園の池に架かる太鼓橋が有名です。

木橋は、コンクリート橋などと違って、暖かみがあり、優しさを感じさせます。傷みやすいので、みんなでいたわって守り、残していきたいものです。

(505)

学校の活動報告 (1)

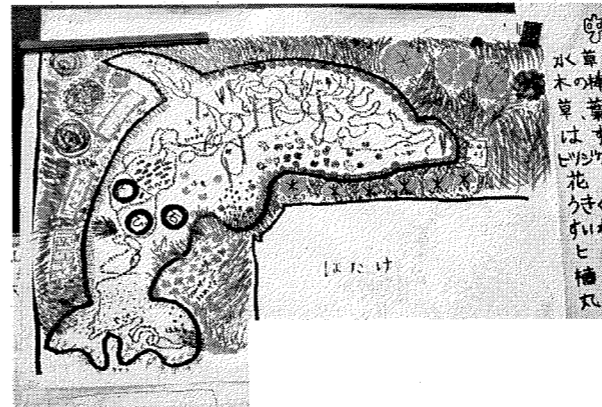
笠間小とんぼ池実行委員会より

いたち川と柏尾川の境目近くに建つ学校、それが笠間小学校です。といっても、大きくて交通量の多い道路のほうが沢山あるので、「環境が良い場所」とは言えないところが考えものなのです。だから「とんぼ池を作ろう」という案は、この問題にぴったりでした。自然が少ないこの笠間に「とんぼ池」という形の自然があると、ふだん姿を現さない、現せないとんぼ達が出てきてくれるし、他の学校のとんぼ池と力を合わせて数少ないとんぼが増えることにもつながるし、今、わたしたちは実現に向けて全力投球中です。

とんぼ池の形と名前は、全校児童にアンケートをとり、いろいろの形をした「とんぼの学校」に決まりました。この形には、メダカなどの小さな生き物よりもずっと大きないるかのようにどんなに大きな海でも渡れるように、というわたしたちみんなの願いが込められています。

笠間小のとんぼ池の周りには、柿や栗、杏、夏みかんなどのおいしい実のなる木やくぬぎやこならを植えて、自然いっぱいにしよう!とっています。池の中には、アメンボやメダカ、ゲンゴロウなど、やごを食べてしまう心配のない生き物を入れるつもりです。

この池の未来は、自然園とまではいかないけれど、とんぼをはじめ、小鳥や昆虫が集まるような池になればと、わたしたちの夢と希望であふれています。



(とんぼ池実行委員会
上野恵彦・木下潮里・吉本千夏)

愛護会の活動報告 (1)

いたち川水辺愛護会(天神橋～新橋)より

- 平成12年2月末までの活動
- ①平成10年5月発足以後の参加者数は延べ60名(名前確認58名)
 - ・参加者年齢8才～88才(現在最高年齢85才、88才の方8月に逝去)
 - ・子供参加状況:
 - 小学生6名(小学2年生1名、3年生3名、4年、5年生各1名)、
 - 高校生1名(高3)
 - ・女性19名、男性41名
 - ・市外からの参加者4名(鎌倉市3名、千葉縣市川市1名)

②月例活動(第4日曜全体活動日とした)

年月日	人数	活動場所	ゴミ		自転車	備考
			ネット	その他		
H10.5.24	4名	新橋周辺		4袋 草(ゴミ)2箱	1台	
6.28	4名	花の木橋～海軍橋		6袋	1台	
7.26	15名	海軍橋～旗山橋	10袋	タイヤ池		
8.30	13名	天神橋～養老学校橋	5袋	洗木枝10束	1台	
9.27	16名	新橋～海軍橋	10袋	10袋 タイヤ池		
10.25	14名	花の木橋～養老学校橋	13袋	5袋		海軍橋下流の空缶多量
11.22	15名	海軍橋～旗山橋	14袋	タイヤ3、スクーパー池		
12.20	16名	新橋～海軍橋	11袋	6袋	1台	
H11.1.17	12名	COP主催海の清掃				由比ヶ浜(全体21名) 24日は雨の為中止
2.28	15名	新橋～海軍橋	12袋	タイヤ3、座椅子池	1台	
3.28	16名	同上	9袋	3袋 カゴ卵池	1台	
4.25	15名	花の木橋～新橋下流	6袋	2袋 バイブ管、車輪池		
5.23	22名	新橋～海軍橋	7袋	1袋 車、アマコトタン?池		
6.27	21名	旗山橋～いたち橋	2袋			一部男性川掃除手袋 初めての集い!帰く
7.25	22名	新橋～養老学校橋	13袋	ストロー、タイヤ	2台	
8.22	18名	花の木橋～旗山橋	12袋	タイヤ、木の枝束池		11時よりいかに祭り川 清掃と(ハ)手取110名
9.28	20名	同上	10袋	ビニールシート、鉄管池	1台	
10.24	24名	新橋～いたち橋	17袋	6袋 タイヤ3、鉄パイプ池	1台	清掃の後物置落成式
11.28	26名	同上	14袋	1袋 タイヤ、丸太、子供乗物池		
12.19	22名	同上	13袋	1袋 木の枝2束、金物池		
H12.1.23	21名	石橋(中程) 天神橋～養老学校橋	10袋	椅子池	1台	
2.27	29名	新橋～いたち橋	7袋	5袋 水浄化実験用スカ袋4	1台	河川工事をしている道橋 工務店より6名参加

- ③その他の活動(個人又は有志の方の協力)
- 40回以上(発足～平成12年2月末)
 - ・台風や大雨の後始末(流木は切り、枝も集め東にする)5回(うち4回はH11年)
 - ・流木や枯草、細かい芝の様なゴミ等焼却
 - ・気になる場所の清掃24回
 - ・TV撮影時の協力や土木との意見交換(会議、研究会出席)等4回以上
 - ・いかに祭りお手伝い、海の清掃参加(各年1回)4回

■最近の活動(平成12年3月～9月)

- ①新参加者6名
 - ・女性5名(うち小学生1名、中学生1名)、男性1名
- ②活動
 - ・4月より本郷中学校裏の土手に花壇をつくり、花を植えました(K園芸さんより頂いて)。
 - ・通行の妨げとなる木の枝落とし。
 - ・公園の清掃(柏陽高北)等有志による活動も積極的に行われています。

(高山)

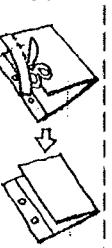
発行: 狹川OTASUKE隊(いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局: 栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8331 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせはこちらまで)

発行年月
2000年10月

(通刊11号)

この部分を切り取って
ファイルすると便利
です。



8月20日(日)、区役所裏のいたち川で「いたち川いかだまつり」が楽しく行われました。

これは「いたち川と親しむ会」や「いたち川水辺愛護会」、「おたすけ隊」、「天神橋クラブ」等によって行われたものです。当日は天候に恵まれ、夏の日差しのなか参加者(約130人)は思い切り「いかだ遊び」を楽しんでいました。



まず、みんなで川のそうじをしました。いかだは発砲スチロール製で、一度に10人近い子供達が乗って川遊びを満喫していました。いかだ遊びができる川が身近にあることは素晴らしいことで、いつまでもみんなで楽しめるいたち川であってほしいものです。

いかだまつりは、いかだ遊びの他に魚取り、ヨーヨーすくい、金魚すくい、カップレース等が行われました。

また今回は、川の中を見られるテレビモニターや箱形水中メガネを用意し、川の観察も行われました。

たのしかった いかだまつり。

また来年も しましょう!

いたち川いかだまつり
いかだ祭りに参加して、まず受け付けをし、川そうじをしました。ものすごく暑かったけどみんな協力して活動できました。そのあと金魚すくいをしたり、ヨーヨーすくいをしました。最後にいかだにのりまして、大きい子も小さい子のいかだをおしてあげました。みんな川と親しんでいました。
瀬戸雄次郎
こどもレポーター

いたち川いかだまつり
いかだまつりに行き、大きいいかだは、ゴムボートにのりました。でもたのしかったのは、やはり、いかだでした。これはなせかというところ、右にみかがるか、いつおちるかの、スリルがあるからです。ほかにも、カップレースがありました。それは、がみコップと、きょうにゅうバックで作ります。わたしは2位になりました。
8月20日は、とても、たのしい1日でした。
大坪
こどもレポーター

いたち川いかだまつり
いかだ祭りに行くとき、頭の中は調べることでいっぱいでした。川そうじのときはめんどくさいと思ったけど、意外とおもしろかった。いいあせかいたあと、まちにまたいかだ遊び、操縦するのが大変だったけど、思ったとおり、サイコーにおもしろかった。そのほかの行事もおもしろかった。いかだ祭りが終わったとき調べることを忘れるほどサイコーにおもしろかったです。
鈴木吉奈
こどもレポーター

いたち川いかだまつり
ゴミ拾いをしたときがラスが落ちてました。あがないと思いましたが、いかだに乗るとき「すまないかな」と思ってたのは、このころの、おもしろかったです。はじめの、たのびこうふんしてしまいました。ゴムのボートにものりました。足の下がゴムでゴムの下が水なので足もとがブニョブニョしました。2人のりの、いかだにのりました。すごくこわかったです。ほかは、ヨーヨーなどか、おもしろかったです。いかだ祭りにまた参加したいと思えました。
鈴木吉奈
こどもレポーター

いたち川いかだまつり
わたしは、いかだ祭りでいちばん楽しかったのは、小さいいかだに、乗ったことです。あまりにゆらゆらしたため、川に落ちてしまいました。一回目は、ゆらゆらと二回目は、オール(木の棒)を右のいかだにはさまってしまったからです。2回ともおちてしまったけど、とても気持ちよかったです。
立石明日香
こどもレポーター



切りとり線

いたち川周辺の生き物⑧ 流れのゆるやかな所を好むアブラハヤ

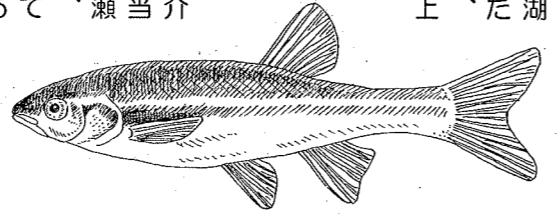
アブラハヤは、大きさは10〜15センチで、青森県から琵琶湖にかけて分布しています。いたち川の全域に住んでいます。アブラハヤのいない神戸橋より上流部が目立ちます。一般に川の上流域で比較的流れのゆるやかな所や山間部にある池や沼にいて、流下昆虫、水生昆虫、付着藻類を食べています。

昨年秋号(通刊7号)で紹介したオイカワは、中流域の日当たりのよい浅い淵や開けた平瀬を好みますが、アブラハヤは、大きな石の下流や水草が茂って水がよどんでいたり、日影のある所を好みます。

モツゴ(クチボソ)とよく似ていますが、モツゴは背鰭と腹鰭が上下ほぼ同じ位置から出ているのに対して、アブラハヤは背鰭が腹鰭よりかなり後ろの位置にあります。また、アブラハヤには、体に黄色のしまがあることで区別できます。

産卵期は四〜七月にかけて、淵の周辺部で水深が10〜50センチくらいの砂礫底で行われます。雌雄が塊になって砂礫に頭を突っ込み、身体をふるわせて産卵します。卵は五〜七日くらいで孵化し、卵黄を吸収しながら徐々に砂礫の表面に出ます。卵黄を完全に吸収すると泳ぎだし、流下物などを食べるようになります。雄は一〜二年で、雌は二年で成熟します。

(いも)



リリートークの10 ごめんね! ヨシノポリ君

「すみません! 貴方が掴んでいるのは何ですか?」

「ああ、これですか。ヨシノポリと言つハゼ科の魚です。いかだまつりで川に入った子供達に踏まれてしまったんでしょね。」

「ハハ? そうなんですか。」

魚が子供に踏まれたなんて、随分とドジな魚がいるもんだなあ。そう思った私だったが、咄嗟に遠い子供の頃が思い出された。友達と奥多摩にある小さな川に釣りに行った時である。私は小石の多い川の中に素足で入り対岸の深みに向かって竿を振っていた。魚は一向に掛からなかったけれど、何かが私の足の土踏ますの下に潜り込んだ。感触からして魚のようである。私は屈み込むと出口を塞ぐようにして手を土踏ますの下に入れた。そして一匹の魚を掴んだのである。あの時、土踏ますに力を入れてしまえば、このヨシノポリと同じ運命を辿った筈である。

「この川は以前と比べて水質が良くなりましてね。いろんな魚が海から遡上して来るようになったんですよ。川辺の植物にしても、ほら、今貴方が踏み付けている草なんです。」

私は一瞬飛び跳ねた。無惨にも私に踏み付けられた草には二度と立ち上がる気力はないように見えた。知らないという事は時には気楽な人生を送れるもので、知っていたら川辺を歩く事さえ難儀になるに違いない。

いかだまつりで犠牲になったヨシノポリや珍種の草は無駄死にする事はない筈で、君等の子孫はきつと今日の子供達が守ってくれるだろう。

ボランティアの人達の地道な努力で一度は失われかけたいたち川の自然が帰ってきた。

(桂台北 田中信行)